図 4. 日本におけるキヒゲアリヅカムシ分布図.

集；1 ♀，高雄縣六亀，19. ii. 1987, 馬場金太郎採集；2 ♀, 同データ, 但し 1–8. xii. 1988；3 ♂ 4 ♀, 同データ, 但し 7. iii. 1989；1 ♀，同データ，但し 4. vi. 1989；1 ♀，同データ，但し 31. vii. 1989；1 ♂ 5 ♀，同所，1. viii. 1988, SN；4 ♂ 13 ♀，同扇平渓，2. viii. 1988, SN；1 ♂ 7 ♀，同扇平山，3. xii. 1988, 馬場金太郎採集；3 ♂ 4 ♀，同データ，但し 4. viii. 1989；1 ♂ 1 ♀，Tsai Tei Ku, 8. iii. 1989, 馬場金太郎採集；1 ♂，同データ，但し六亀近傍 Mt. Ta Yuen Shan; 1 ♂ 2 ♀，同データ，但し墾丁 ; 1 ♀，同データ，但し屏東縣 Soo Ka.

＜生息環境＞ 本種は主に，スダジイ，タブノキやアカガシを主体とする平地～中山地の照葉樹林の林床に堆積した落葉土中に生息している．日本では多数個体が一度に採集されたことはなく，生息密度は一般に低い．

引用文献

Newton, A. & D. S. Chandler, 1989. World catalog of the genera of Pselaphidae（Coleoptera）. Fieldiana, Zoology, New Series, (53): 1–93.

Raffray, A., 1904. Genera et catalogue des Psélaphides. Annales de la Société entomologique de France, 72: 484–604; 73: 1–400.

Raffray, A., 1912. H. Sauters Formosa – Ausbeute. Pselaphidae（Col.）. Entomologische Mitteilungen, 1: 103–109.

野村周平 , 1995a. 宮崎県のアリヅカムシ―特に東諸県地域のファウナに注目して―. 宮崎東諸県の生物―その分類学・生態学的新知見―, pp. 1–16.

野村周平 , 1995b. 宮崎県産土壌甲虫分布資料 . 新筑紫の昆虫 , (4): 25–35.

野村周平 , 1996a. 佐賀県のアリヅカムシ . 松浦博ら編 佐賀県の生物 , pp. 263–279.

野村周平 , 1996b. 佐賀県産土壌甲虫分布資料 . 佐賀の昆虫 , (30): 721–727.

野村周平 , 2015. 鹿児島県甑島列島のアリヅカムシ相に関する記録 . さやばねニューシリーズ , (18): 16–19.

野村周平・永井あつし , 1995. 宮崎県産アリヅカムシ科 . タテハモドキ , (31): 19–27.

野村周平・松尾照男 , 2001. 平戸島 , 生月島と西彼杵半島のアリヅカムシ . こがねむし , (66): 1–6.

野村周平・水野弘造 , 2002. 京都府で採集されたアリヅカムシ . ねじればね , (101): 1–15.

野村周平・三宅　武 , 2008. 大分県内で採集したアリヅカムシ . 二豊のむし , (46): 30–41.

原木直美・田添京二・野村周平 , 2008. 静岡県内及びその周辺で採集したアリヅカムシ . 甲虫ニュース , (161): 1–8.

三輪勇四郎 , 1931. Pselaphidae 蟻塚科 , 台湾産昆虫分類目録（鞘翅目）. 台湾総督府中央研究所農業部報告 , (55): 40–44.

（2019 年 3 月 7 日受領，2019 年 5 月 2 日受理）

論文紹介

Liu, Y., Dietrich, C.H., Braxton, S.M. & Wang, Y., 2019. Publishing trends and productivity in insect taxonomy from 1946 through 2012 based on an analysis of the Zoological Record for four species-rich families. European Journal of Taxonomy, 504: 1–24.

1946～2012 年に記載されたヨコバイ科，カスミカメムシ科，ハマキガ科，ハネカクシ科について，Zoological Record のオンライン版を使って解析している．著者別の論文数ベスト 20 では，ハネカクシ科で日本人はお二人，Watanabe（渡辺泰明博士）と Naomi（直海俊一郎博士）がランクインしている．また，それぞれの分類群でどこの雑誌に論文が多く掲載されているかについては，ハネカクシ科とそれ以外 3 科では掲載誌が大きく違っていて，共通するのは Zootaxa 誌のみ．いかに甲虫が他の分類群と違うところに掲載されているかということの証左ともいえる．そして日本の雑誌は Elytra と The Entomological Review of Japan がランクインしており，これら 2 つを合わせるとこの期間で最も多くのハネカクシ科の論文が掲載されたことになっている．本学会としては，たいへん誇らしいことである．

（吉富博之　愛媛大学ミュージアム）